



〔海の状況 (10/16~11/15)〕

- ・小川地先の表面水温… 期間を通して平年よりかなり高め (平年差1.0℃~1.5℃)で推移した。(図1)
※平年は、神子地先の過去30年平均
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通して平年並み(平年差±0.5℃)から平年よりやや低め (平年差-1.0℃~-0.5℃)で推移した。(図2)

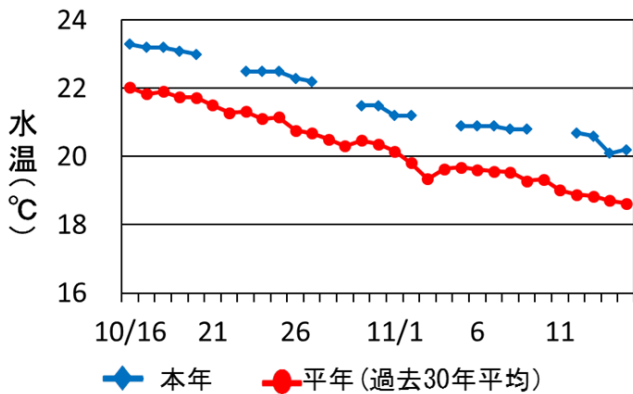


図1. 若狭町小川地先における表面水温の推移

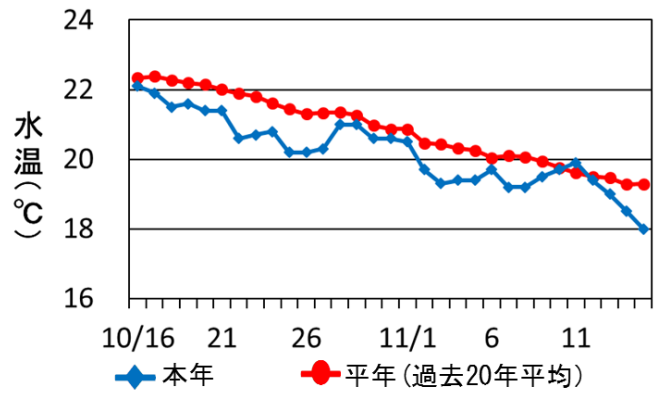


図2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：10月〕

10月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(0m)では、若狭湾から嶺北沿岸で、24℃~26℃と前年より高くなっていた。また、富山湾では22℃~24℃と前年より低くなっていた。水深50mでは、嶺北から石川県沿岸で18℃~20℃と前年より低くなっていた。水深100mでは山陰・若狭沖の冷水域の規模が前年より大きく、また、沿岸に近づいていた。(図3)

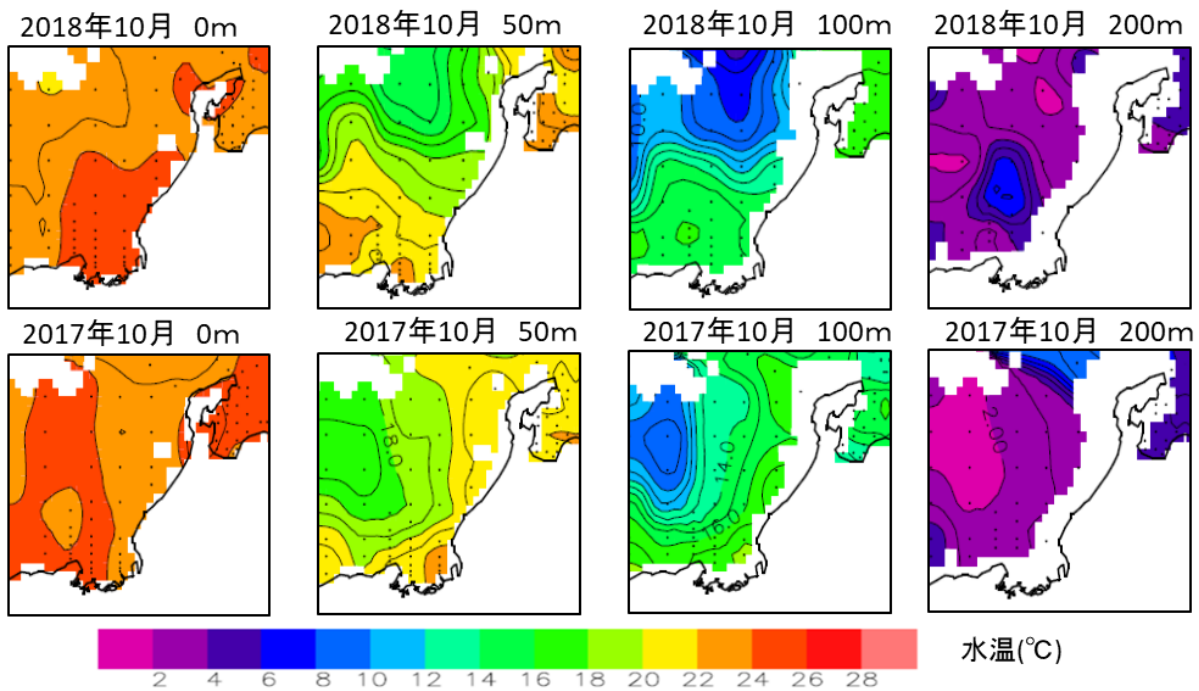


図3. 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

越前がにの漁模様

11月6日にズワイガニ漁が解禁されました。解禁日から15日までの漁模様をお知らせします。

○漁獲量はズワイガニ(雄ガニ)37 t(前年:36 t 対前年比:104%)、セイコガニ(雌ガニ)88 t(前年:81 t 対前年比:108%)とズワイガニ、セイコガニともに前年並みでした。

○1kgあたりの単価はズワイガニ8,571円(前年:9,162円 対前年比:94%)、セイコガニ2,401円(前年:2,572円 対前年比:93%)とズワイガニ、セイコガニともに前年並みでした。

漁獲量等のデータは福井県底曳網漁業協会より提供いただきました。

(漁業管理グループ 瀬戸 久武)

〔県内の漁模様：10月〕

2018年10月の県内の総漁獲量は908 tで、昨年同月と比べて72 t下回った。

〔定置網〕

漁獲量は540 tで、昨年同月と比べて58 t下回った。サバ類、ヒラマサ、サワラ等は上回り、アジ類、ブリ類、シイラ等は下回った。

〔底びき網〕

漁獲量は314 tで、昨年同月と比べて15 t下回った。カマス、アナゴ、アカエビ等は上回り、アカガレイ、その他カレイ、キス類等は下回った。

〔釣り・その他〕

漁獲量は54 tで、昨年同月と比べて1 t上回った。サバ類、キダイ、ソデイカ等は上回り、メバル類は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(10月)

定置網 (kg)						底びき網の続き (kg)					
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差	魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
アジ類	21,226	28,259	57,751	-7,033	-36,525	その他カレイ	16,292	20,850	33,573	-4,557	-17,280
サバ類	56,527	20,515	14,317	36,012	42,210	カマス	8,253	2,444	10,285	5,810	-2,032
カジキ類	1,592	683	2,931	910	-1,339	アナゴ	9,058	4,705	6,929	4,353	2,129
ブリ類	37,574	167,107	150,592	-129,533	-113,018	メバル類	1,791	1,955	2,058	-164	-267
(ブリ)	264	742	526	-478	-261	キス類	18,132	41,465	21,404	-23,333	-3,273
(ワラサ)	2,336	18,466	6,882	-16,129	-4,545	スルメイカ	3,828	4,763	3,976	-935	-147
(ハマチ)	2,988	21,527	9,389	-18,539	-6,401	ケンサキイカ	4,156	655	2,863	3,500	1,292
(ツバス)	19,777	56,139	123,071	-36,362	-103,294	タコ類	4,678	6,866	9,670	-2,188	-4,992
(アオコ)	12,209	70,233	10,725	-58,024	1,484	アカエビ	97,428	81,617	58,758	15,811	38,671
ヒラマサ	6,335	2,146	8,745	4,189	-2,410	その他エビ	4,326	5,113	4,591	-787	-265
シイラ	16,182	113,982	62,079	-97,801	-45,897	その他	50,522	54,404	73,741	-3,882	-23,220
サワラ	338,575	179,439	317,754	159,136	20,821	合計	314,298	329,375	337,724	-15,076	-23,426
サケ、マス	1,070	719	2,174	351	-1,104	釣り、延縄、さし網、その他の漁法 (kg)					
マダイ	3,498	6,773	3,687	-3,276	-190	魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
その他タイ	1,930	5,906	1,973	-3,976	-42	アジ類	1,216	23	1,171	1,192	45
スズキ	3,504	2,816	2,482	688	1,022	サバ類	2,280	22	194	2,258	2,086
カマス	2,604	6,979	16,371	-4,375	-13,767	ヒラマサ	1,110	301	278	809	832
フグ類	2,846	6,104	7,020	-3,257	-4,174	シイラ	1,214	0	19	1,214	1,196
アオリイカ	5,602	7,830	15,999	-2,228	-10,396	サワラ	1,487	1,115	376	373	1,112
ケンサキイカ	1,597	671	2,052	926	-455	マダイ	1,660	1,256	2,256	404	-596
ソデイカ	1,904	960	3,140	944	-1,236	キダイ	7,354	5,341	7,007	2,013	347
その他	37,146	46,616	58,040	-9,470	-20,894	アマダイ	5,301	5,254	6,283	47	-982
合計	539,712	597,504	727,106	-57,792	-187,394	メバル類	1,389	2,892	2,872	-1,503	-1,483
底びき網 (kg)						ソデイカ	7,317	2,135	8,910	5,182	-1,593
魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差	タコ類	1,464	1,187	1,925	277	-461
マダイ	2,843	3,820	3,400	-977	-558	その他	22,055	33,419	66,555	-11,364	-44,500
キダイ	39,711	42,646	34,114	-2,934	5,598	合計	53,848	52,946	97,845	903	-43,997
その他タイ	2,131	2,278	1,116	-147	1,015	全漁法 (kg)					
アマダイ	3,572	3,265	4,125	308	-552	魚種名	2018年	2017年	平年	前年差	平年差
ヒラメ	1,185	979	986	207	200	合計	907,859	979,817	1,162,675	-71,958	-254,817
アカガレイ	46,390	51,550	66,135	-5,161	-19,746						

※1 平年の値は2008-2017年の10年平均です。 ※2 ()は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 数値は小数点以下を四捨五入しています。

〔近隣府県の漁模様〕

(漁獲状況…石川県：10月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：10月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：10月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：10月中旬～11月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。)

石川県…定置網…サワラ類8.7 t、サバ類3.1 t、シイラ2.9 t、フクラギ・コゾクラ(1 kg以下のブリ)2.4 t

京都府…定置網…サワラ類5.5 t、ツバス1.0 t、カワハギ類0.9 t、サバ類0.9 t、マアジ0.4 t、アオコ0.4 t

兵庫県…定置網…マアジ436 kg、ウルメイワシ109 kg、スズキ54 kg、マサバ43 kg、サワラ34 kg、アオリイカ17 kg

鳥取県…まき網…マサバ13.5 t、ブリ類10.5 t、マアジ9.9 t、ウルメイワシ0.1 t

(漁場環境グループ 山下 慎也)

ハダムシの発生状況をモニタリングしています

魚は人間と同じように、体調を崩すとウイルス病、細菌病、寄生虫病等、様々な病気にかかりやすくなります。自然界に比べ、魚の飼育密度が高くなること多い養殖場は、一部の養殖魚が病気にかかると感染が急速に拡大する危険性が高く、時に大量死を引き起こすことがあります。病気による大量死は、生産者の収入を減少させるとともに、薬剤の投与や死亡魚の取り上げ等の重労働を生産者に強いることとなります。水産試験場では、主に養殖場で発生する魚病の診断や、養殖・放流用種苗の保菌検査、寄生虫発生状況のモニタリング等を行うことで、病気の早期発見と蔓延防止に努めています。

ハダムシはその名の通り、魚の体表に付く寄生虫で、吸盤状の固着器を使って魚の体表に吸着し、組織を食害します。大量発生すると養殖魚の大量死を引き起こすことがあります。

嶺南地方では多くの地域でトラフグの養殖が行われていますが、トラフグにはネオベネデニア・ギレレ (*Neobenedeniagirellae*) というハダムシが寄生することが知られています。ネオベネデニア・ギレレは特に夏から秋に多く発生します。

そこで水産試験場では、毎年8月頃から県内のトラフグ養殖場を対象に、ハダムシのモニタリングを実施し、発生状況を関係機関宛に情報発信しています。ハダムシの発生を早期に確認できれば、被害が出る前に淡水浴や薬浴等のハダムシ対策を講じることができます。また、ハダムシの発生が確認された後も定期的にモニタリングすることで、寄生数の増減がわかり、生産者の方がハダムシ対策を行う際の目安となっています。

今年度は8月下旬からモニタリングを開始しましたが、9月中旬から各地域でハダムシの寄生数が多くなってきたことから(表1)、多くの養殖場で淡水浴や薬浴が実施されました。その結果、今年度はトラフグ養殖でハダムシによる大きな被害はなく、11月以降は多くの養殖場で寄生数は減少傾向にあります。

ハダムシが多く発生する時期や場所は年によって変わることがあり、その予測は困難です。したがって、ハダムシによる魚病被害を防止するためには、今後も早期発見とモニタリング結果の情報共有が重要です。

表1 平成30年度 生産者別トラフグ0歳魚1尾あたりのハダムシの寄生数

	地域A		地域B			地域C		地域D	
	生産者a	生産者b	生産者c	生産者d	生産者e	生産者f	生産者g	生産者h	生産者i
8月下旬	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-
9月上旬	-	-	-	-	-	1.2	-	0.0	-
9月中旬	0.5	0.0	45.9	47.9	44.7	24.6	4.6	1.6	-
9月下旬-10月上旬	15.8	0.0	3.3	10.4	4.4	2.4	-	11.6	29.2
10月中旬-下旬	19.6	0.0	-	-	-	-	-	-	5.6
11月上旬-下旬	2.8	0.0	-	-	-	1.5	37.0	-	4.0

水産試験場では、魚病に関するご相談や、病魚の持ち込みを随時受け付けています。魚病の発生が疑われる時は、是非ご連絡ください。

(技術開発グループ 中嶋 登)



ハダムシ *Neobenedeniagirellae*



トラフグに寄生するハダムシ